

ニ ュ ー ス レ タ ー

明治大学史



Vol.9
Mar.31. 2012

Center for the History of Meiji University Newsletter



木村礎関係資料調査（2011年8月30日 相模原市緑区澤井・石井家【国指定重要文化財】）

ニュース ヘッドライン

特集 センター調査報告

I 人権派弁護士関係／II 木村礎関係／III 創業者関係
／IV 校友関係／V 学内サークル等／VI 学内資料

明治大学創立130周年記念事業（大学史関係）実施

センター活動記録抄 2010年3月～2012年2月

学内紙誌類執筆記事一覧

大学史資料センター刊行物案内

三木武夫研究／総理の妻 三木武夫と歩いた生涯／布施辰治研究
／明治大学小史 人物編／明治大学小史／木村礎研究 I／
大学史資料センター報告 34 大学史活動

特集 センター調査報告

大学史資料センターは明治大学のアーカイヴズとして、大学の歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行っています。蓄積した資料を基礎として、展示会の開催や成果物等を刊行し、社会に貢献をすることを目指しています。

本号では主として2010・2011年に実施した調査をご紹介します。

Ⅰ 人権派弁護士関係

① 阿保浅次郎関係調査（2010年3月22日（木）～24日（土） 弘前市撫牛子^{なひじょうし}地区関係者調査（聞き取り）、阿保礼吉郎氏（阿保浅次郎実家の現当主、青森県弘前市撫牛子2-1-9）等、弘前市内郷土史および大学史関係施設（市立博物館、弘前城天守閣・藤田記念庭園（校友藤田謙一関係）・弘前図書館等））

第2期人権派弁護士研究会（研究代表・村上一博 法学部教授）では、司法の世界で実績を挙げるとともに、大学で役職を務め、大学の発展に貢献した人物について調査を進めています。

阿保浅次郎（1881-1965）は、1905年に明治大学を卒業したあと弁護士となり、後に東京弁護士会会長や明治大学専務理事・理事長を務めました。本調査では阿保が生まれた青森県中津軽郡和徳村撫牛子^{なひじょうし}に赴き、阿保のご親戚にお話を伺うとともに周辺の巡見を行いました。

なお、阿保に関する資料調査の終了後、初代日本商工会議所会頭や明治大学商議員をつとめた藤田謙一（1874-1946）が別邸として作り、現在は弘前市が管理する藤田記念庭園を見学しました。

なお、阿保と藤田については『明治大学小史 人物編』で紹介しました。

（山泉進・村上一博・阿部裕樹）

※カッコ内は調査者。以下同じ。

② 布施辰治関係調査（2010年8月3日（火）～5日（木）石巻文化センター（宮城県石巻市））

第2期人権派弁護士研究会では共同研究の成果として『布施辰治研究』（日本経済評論社刊）を刊行しました。主として同書掲載事項の確認を目的に、



石巻文化センターに収蔵されている布施辰治関係資料の調査を行ったものです。

とりわけ、布施の弁護士活動のなかで重要な位置を占める朝鮮関係資料、台湾関係資料、懲戒裁判関係資料に加え、布施の生地である蛇田村関係資料を中心に閲覧・撮影しました。

なお、本調査をはじめとして、これまでもお世話になってきた同センターは、2011年3月11日に石巻市を含む東日本沿岸一帯を襲った大地震と津波により甚大な被害を受け、休館中です。布施の資料は流出を免れたようですが、施設再建のためには課題が山積と伺っています。2012年3月に被災後最初の調査を行いました。詳細は次調査報告を御覧ください。

（山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹）

③ 長谷川太一郎・布施辰治関係資料調査

（2012年3月28日（水）～30日（金）長谷川太一郎生家（福島県大沼郡金山町）、石巻市図書館・石巻文化センター（石巻市）、女川第一中学校（牡鹿郡女川町））

本調査は、明治大学理事長をつとめた長谷川太一郎（1881-1968）の調査と、布施辰治の郷里である石巻を震災後初めて訪問し、資料等の被災状況の確認をあわせて実施したものです。

まず長谷川の郷里である福島県大沼郡金山町^{かねやままち}を訪ね、同氏のご親族から聞き取り調査を行いました。

長谷川は1911年に明治大学を卒業後、1913年に弁護士試験に合格。第一東京弁護士会会長を経て、戦後初代の最高裁判事に就任。1956年には明治大学理事長に就任し、2期8年の任期を務めました。金山町でお話を伺ったのは、長谷川ヒデ子氏と、隣家に住む星佐益氏です。

両氏からは、①集落の伝統なども交えながら、長谷川家の家系について、②長谷川太一郎の前半生について（上京まで）、③ご親族から見た長谷川太一郎の人柄、などについてご教示を得ました。また、晩年の長谷川太一郎自身の一生を振り返り、近親者に配った歌集や多数の写真を拝見しました。最後に、



長谷川太一郎顕彰碑

長谷川太一郎墓地や顕彰碑（写真）をご案内いただきました。

これまで、長谷川太一郎についてはごく簡単な評伝のみしか把握できていませんでした。今回の調査により長谷川太一郎の前半生や人柄についてうかがうことができ、有益な調査となりました。

次に、場所を宮城県石巻市に移しました。布施関係資料が収蔵されていた石巻文化センターの仮事務局である石巻市図書館に、以前から交流のあった佐々木氏を訪ねました。被災した布施資料の大部分は現在、東北歴史博物館（宮城県多賀城市）に移されているとのことです。

次に、石巻文化センターの現状を見学しました。同センターは沿岸部に位置しており、東日本大震災（津波）によって、周辺地域ともども非常に大きな被害を受けました。周辺地域はかろうじて最低限の道路だけは整備されているものの、建物の復興は進まず、また北上川の対岸には大量の瓦礫が集められていました。

最後に、女川第一中学校に以前から交流のあった阿部一彦教諭を訪ねました。阿部教諭は、授業のな

かで生徒とともに布施の共同学習をおこなっておられ、明治大学へも生徒を引率して来校され、センター運営委員から布施の説明を受けております。女川町は市街地のほとんどが津波によって壊滅しています。今回の震災を受けて阿部教諭は、生徒の学習環境を整えることを目的に「希望のえんぴつプロジェクト」等を企画運営されています。阿部教諭からは、ご自身が作成した資料「豊かな海に感謝する日まで——日本全国、そして世界各国の方々のご支援に感謝申し上げます」などをいただきました。

（山泉進・阿部裕樹）

④ 正力喜之助弁護士関係資料調査

〈2010 年 12 月 17 日（金）～19 日（木）富山県高岡市周辺、正力・小林記念館（同射水市）〉

正力喜之助（1906～1980）は 1927 年に明治大学を卒業後、郷里の高岡で弁護士事務所を開設し、のち富山県弁護士会会長を務めました。正力はいわゆる「イタイイタイ病」をめぐる集団訴訟の弁護団長を務めたことで知られています。イタイイタイ病とは富山県中町地域を中心として神通川流域に発生した、鉱業所から流されたカドミウムを含む廃水に起因する公害病です。1968 年に開始された裁判は 1972 年に、名古屋高等裁判所金沢支部において全面勝訴の判決をもたらしました。

なお正力の叔父（母の弟）は読売新聞社社主・読売巨人軍オーナーなどをつとめた正力松太郎です。

本調査においては、高岡法科大学の高倉史人教授に高岡における弁護士についてご教示を受けたのち、正力（松太郎）・小林（與三次）記念館を訪問し、正力家の関係資料を確認しました。

その後高岡で弁護士を開業する鍛冶富夫弁護士事務所及び樋爪勇弁護士事務所を訪問し、関係資料を拝見しました。樋爪弁護士の事務所では正力喜之助を閲覧する機会を得ました。

（村上一博）

⑤ 長野国助関係資料調査

〈2011 年 8 月 3 日（水）～5 日（金）今治市中央図書館

(愛媛県今治市)、愛媛県立図書館(同松山市)、仏城寺(同今治市)

長野国助(1887-1971)は日本弁護士連合会会長を務め、1964年には明治大学理事長に就任しました。全国人権擁護委員連合会会長も務めるなど、人権擁護でも功績を残しています。

本調査では長野の郷里である愛媛県今治市周辺を調査しました。初日は今治市中央図書館において郷土資料の調査を行い、同図書館司書野口氏にご協力を賜りながら、以下の資料を収集しました。

『どんどび』(阿部克行「口髭と人力車——弁護士たちの青雲記」等)

伊予新聞社出版部『紳士録』(1954年)

『愛媛弁護士会百年史』

『在京愛媛県人名簿』(1952年)

『今治郷土史 今治地誌集』(1987年)

新愛媛新報社『県外愛媛県人の事業と名鑑』(1970年)

愛媛放送株式会社『えひめ 人 その風土』(1986年)等

その後近藤賢治氏(校友会地域支部長、今治史談会役員)、井出克彦氏(同支部、元今治市職員)他の皆様のご協力を得て聞き取りを行い、長野や渡部



関係者聞き取り後の記念撮影

喜十郎(同じく本学出身の日弁連会長経験者)についてお話を伺いました。

翌日は引き続き校友会愛媛県支部今治地域支部の

関係者に聞き取り調査を行い、近藤・井出の両氏に加え、曾我部公子氏(前地域支部長・故曾我部敬郎氏令夫人、長野長男・邦太郎氏と交流あり)に種々お話を賜りました。

最終日の5日は、愛媛県立図書館にて、長野国助および愛媛県出身の校友関係記事を収集しました。

大観刊行会『今治史越智郡大観』(1931年)

山田積善『私の詩の吟じ方』(岩本書店、1937年)

伊予鉄電社友会館維持会『井上要翁伝』(1953年)

三予人社『三予人』4巻3・4号(1954年)

※長野国助「私の松山時代」

愛媛新聞社『明治百年・歴史の証言台』(1967年)

藤田征三『愛媛の女性百年』(昭和書院、1969年)

愛媛県警察本部『愛媛県警察史』第1巻(1973年)

今治市役所『新今治市誌』(1974年)

静山社『郷土に生きた人びと——愛媛県』(1983年)

愛媛新聞社『愛媛県百科事典』(1985年)

大洲史談会『温古』8号(1986年)

愛媛新聞社『愛媛県人名大事典』(1987年)

今治市役所『写真が語る今治』(1989年)

愛媛新聞社『発掘えひめ人——近代を拓いた101人』(2002年)

文芸書房『ちんがらまんがら』(2003年)

武内作平関係資料

愛媛新聞社「愛媛新聞」

(村上一博・山泉進・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹)

⑥ 立川雲平関係資料調査(2012年2月23日(木)~25日(土) 洲本市立図書館・洲本市宇山地区・出身小学校・弁護士事務所跡地等(洲本市)、兵庫県立図書館(神戸市))

立川雲平(1857-1936)は淡路島に生まれ、上京して明治法律学校で学んだ後郷里で弁護士を開業し、のち信州に居を移して長野県議会議員や衆議院議員(2期)を務めました。立川はその任期中政府の社会主義弾圧を批判する活動を行いました。島崎藤村『破戒』に登場する市村弁護士のモデルといわれています。今回の調査では、立川が

青少年時代と晩年を過ごした淡路島の洲本周辺を調査しました。

調査初日は洲本市立図書館で関係文献調査を行いました。

その翌日は徒歩にて洲本市内の事跡調査にあたり、宇山地区、出身小学校、弁護士事務所跡地、菩提寺の安覚寺の墓碑などを巡見しました。最終日は兵庫県立図書館に赴き、文献調査を実施しました。

(村上一博)

II 木村礎関係

① 木村礎関係資料調査 (2010 年 8 月 25 日 (火) ~ 26 日 (金) 望月定子美術館 (九十九里町片貝 井上隆男氏)、大原幽学記念館 (旭市長部 長谷川國男館長 鈴木秀幸研究員)・幽学関係遺跡、井上洋一家 (同市万才))

日本近世村落史研究に大きな貢献を果たし、明治大学長もつとめた木村礎について、木村礎研究会 (研究代表・門前博之文学部教授) では調査・研究を進めています。2012 年 3 月に刊行した大学史紀要第 16 号と続く第 17 号 (2013 年 3 月刊行予定) では、木村の特集を組んでいます。

2009 年からは村落調査・研究にあたった土地での合宿調査を行なうとともに、木村を知る人びとへの聞き取り調査を実施しています (「ニュースレター」第 8 号)。

本調査の初日は、木村の初期の教え子である井上隆男氏 (九十九里町いわし博物館協議会副委員長・元鎌倉学園教諭) にお話を伺いました。井上氏は木村の初期の津久井調査に文学部学生として同行した経験をお持ちです。井上氏には初期の調査のようすばかりでなく当時の文学部史学科の教員・講義の雰囲気や、卒業後の木村との交流について克明なお話を伺うことができました。

翌日は、木村と教え子たちの共同調査の成果である『大原幽学とその周辺』 (八木書店) でフィールドを行った千葉県旭市周辺を巡見しました。木村は同地で 1971 年から 1980 年まで学生とともに調査を

行なっています。また木村は共同研究終了後も「干潟残党」と称して教え子たちとともに同地で資料調査・研究やその保存活動を行いました。最初に大原幽学記念館に伺い、幽学関係資料 407 点が国の重要文化財に指定された幽学関係資料等を展示する広大な館内を見学しました。その際、同館館長の鈴木国雄氏から記念館の設置や、幽学関係資料の重文指定には、木村が学生とともに進めた幽学に関する調査・研究に負うところが大きいというお話を伺いました。その後周辺の関係故地を巡見し、最後に木村と学生が文書調査のために訪れた井上洋一家に向かいました。井上家は、江戸時代に寄場組合の大惣代や万才村の大庄屋を務めた家です。井上家のご夫妻から、木村の調査の際のようすをお伺いするとともに、関連資料を拝見しました。

(門前博之・藤田昭造・村上一博・飯澤文夫・長沼秀明・森朋久・鈴木秀幸)

② 木村礎関係資料調査 (2011 年 8 月 30 日 (火) ~ 31 日 (水) 城山 (津久井古城 神奈川県相模原市緑区城山)、功雲寺 (同根小屋)、神原家 (同牧野)、石井家 (同澤井)、慈眼寺 (同与瀬宿)、現東京障害者職業能力開発校・小川寺・小平明神宮・小川家住宅 (小平市小川))

木村礎研究会 3 年目の調査は、木村が学生とともに最初に共同調査を行った成果となる『封建村落』 (1958 年刊行) と、それに続く『新田村落』 (1960 年刊行) の故地である合宿場所や調査対象地域の追跡巡見調査を実施しました。

最初に『封建村落』でフィールドとなった津久井周辺を巡見しました。1955 年から 1957 年にかけての 3 か年にわたり合宿調査の宿所となった場所です。ご住職の奥様に、木村が学生を伴って調査に赴いた様子を伺いました。続いて牧野の神原家に移動し、ご当家から家の歴史や屋敷についてお話を伺い、同家墓所へもご案内いただきました。

その後澤井の石井家を訪ねました。石井家も代々澤井村の名主を務めた家であり、その文書はかつての調査対象になっています。文書類は現在神奈川県

立公文書館に委託しているとのことでした。同家屋敷は国指定文化財となっており、ここで屋敷を見学し、ご当主から説明を受けました。ご当主は日本史学専攻の60年代前半の卒業生で、木村の合宿にも参加しています。その学生時代や卒業後の話、それに国指定文化財である屋敷の維持・管理等についてのお話を伺いました。ついで1952年に最初の合宿調査を行った与瀬宿の慈眼寺に立ち寄りました。中央高速の開通によって寺が移動したため当時の面影はありませんでしたが、隣の与瀬神社もあわせて見学しました。

翌日は、『新田村落』関連調査の行われた小平市小川周辺を巡見しました。最初に、合宿場所となった東京都職業補導所の後身と考えられる東京障害者職業能力開発校に赴き、周囲を確認しました。その後、小川新田を開墾した名主・小川九郎兵衛に関わる故地である小平明神宮・小川寺をまわり、最後に小川家の玄関が移築されている小平ふるさと村を見学しました。

(門前博之・藤田昭造・村上一博・飯澤文夫・長沼秀明・森朋久・村松玄太)

III 創業者関係

① 岸本辰雄関係資料調査〈2010年12月10日(金)～12日(日) 鳥取県鳥取市青谷地区・鹿野地区・鳥取市歴史博物館(鳥取市)、美保神社(島根県松江市)、旧大庄屋庄司家(鳥取県境港市)〉

センターでは明治大学創業者・初代校長岸本辰雄(1852～1912)の郷里である鳥取での資料調査を継続しておこなっています。今回は岸本が青少年時代を過ごした鳥取周辺故地の調査を行いました。

初日は鳥取市歴史博物館学芸員伊藤康晴氏と横山展宏氏の案内により鳥取市青谷地区・鹿野地区を巡見しました。あおや郷土館では学芸員の方から、周辺の地誌について説明を受けました。また戦国武将の亀井茲矩の墓所なども見学しました。

翌日は鳥取市歴史博物館にて開催中の「中田正子展」(本学出身で日本初の女性弁護士)等を見学しました。

翌日は境港市に移動し、観光協会会長の柘田知身氏と鳥取県議会議員森岡俊夫氏と面談した後、個人顕彰ミュージアムである水木しげる記念館や、境台場跡を見学しました。



調査の最後に松江市の美保神社を訪ねました。同神社には、1866年に岸本辰雄の義兄永見和十郎が長州藩に脱藩するため立ち寄った際に認められた扇や文書が残されています。今回これらの資料を特別に閲覧することができました。

(吉田悦志・阿部裕樹)

② 岸本辰雄関係資料調査〈2012年2月29日(水)～3月2日(金) 鳥取県立博物館(鳥取市)〉

1868(慶応4=明治元)～1869年前半における、特に岸本辰雄が上京する以前の鳥取藩政資料を調査しました。調査方法は写真撮影で、点数はおおよそ300点になった。以下、おもなものを紹介します。

1869(明治2)年8月、岸本は鳥取藩軍のひとつ「新国隊」の5人の「軍監」の1人として上京しました。「軍監」の5名は、鳥取藩政資料「明治二年八月三日施政局日記」掲載順に、渋谷勲、塩川孝次、山口謙之進、塚田剛、岸本です。この中で、唯一、詳細な経歴等が不明であった塚田剛に関する史料を実見・撮影しました。

塚田家は、塩川孝次と「間柄」の関係で、剛の養父「吉次郎」は、1865年京都警衛、1866年長州征伐に従軍、翌年死去しています。剛は、「吉次郎」の養子で、当初は「代次郎」と名乗っていましたが1868年3月「剛」と改名しています。禄高は20俵4人扶持(※岸本家は23俵4人扶持)です。剛は、

1868 年閏 4 月京都警衛に従事、同年 10 月に帰国している。これは、岸本辰雄と全くの同時期です。帰国すると、当時山陰道鎮撫総督として鳥取藩内にあった西園寺公望一行に従い米子に出張し、その際に当時米子ないし淀江（現、米子市内）に本営があり岸本が所属していた新国隊に加わったと考えられ、1869 年 8 月には、上記「明治二年八月三日施政局日記」にあるように上京している（管見の限り、廃藩置県以後の動向は不明）。塚田は、岸本と共通点が多く、塚田について調査を進めることで、岸本に関する新しい事実を見いだせる可能性があるため、今後の課題としたいと考えています。

また「明治二年八月三日施政局日記」に掲載されている新国隊の上京部隊 226 名の中で「一番小隊」の「司令官」となっている「宮川範蔵」についても、史料を実見・撮影することができました。宮川は、宮川源次郎（18 俵 3 人扶持）の二男で、1863 年より京都警衛にあたっていました。1866 年には鳥取藩代々の砲術師範である武宮丹治が率いる砲隊の砲手となっています。ただし、戊辰戦争の直接の戦闘には参加していないようです。宮川の場合も岸本と共通点が多いため、塚田とともに調査を進めたいと考えています。

その他、岸本が 1868 年に京都警衛にあたっていた際の部隊幹部の履歴（円山佐渡・山住長兵衛等）、新国隊と同じく農兵隊で、戊辰戦争の直接の戦闘に参加した山国隊の関係資料等についても調査しました。

なお、翌日午前には、本学出身の日本初の女性弁護士・中田正子が戦時中に疎開した夫の郷里である若桜町を巡見しました。なお、すでに同町に関係者はおりません。

（阿部裕樹）

IV 校友関係

①五味康祐関係資料調査〈2011 年 6 月 7 日（火）財団法人練馬文化振興協会（東京都練馬区）〉

五味康祐（1921—1980 1945 年専門部文芸科中退）は、1952 年に『喪神』で芥川賞を受賞し

た作家です。『柳生武芸帳』をはじめとする剣豪小説を執筆するかたわら、オーディオ・麻雀など趣味の分野で軽妙なエッセイを数多くものしたことで知られています。

五味の資料は、2007 年、五味が長く住んだ練馬区に一括譲渡され、練馬区文化振興協会にて整理が進められています。区内 6 箇所、区外 1 箇所に分散して保存されている資料のうち、同協会事務局内で保管している資料について閲覧させていただきながら、同協会文化振興係長の山城千恵子氏にお話を伺いました。

五味資料の総点数は著書約 7000 点、原稿 500 タイトル、書簡 200 通、レコード 800 枚、オーディオなどで構成されているそうです。五味のオーディオ論には根強いファンがおり、資料に含まれるオーディオ関係資料について、そういった方々の助力も仰ぎながら保存を進めていったというお話も伺いました。閲覧資料のなかで、五味の自作年譜に加え詳細な紹介記事が掲載された練馬の文学ミニコミ誌『三友』（1959 年 7 月 3 日付）および、娘に読むべき短編をペンで指示した書き込みのある『喪神』単行本、その他メモ類等、貴重な資料を撮影しました。

また同協会より『没後 30 年 五味康祐の世界作家の遺品が語るもの展』（図録 2010 年刊）を頂戴しました。

（吉田悦志・村松玄太）

② 子母澤寛関係資料調査〈2011 年 7 月 30 日（土）～8 月 1 日（月） 五稜郭公園・北海道坂本龍馬記念館等（函館市）、石狩市砂丘の風資料館・石狩市厚田資料館（石狩市）〉

子母澤寛（1892-1968）は、読売新聞記者をへて『新選組始末記』『勝海舟』など後世に残る歴史小説を数多く残した作家です。本調査では、子母澤の生地である石狩市と、幕府御家人として戊辰戦争に参加し、子母澤を養育した祖父・梅谷十次郎の足跡もあわせて調査しました。

初日は、五稜郭公園、函館駅周辺（土方歳三最後の地碑等）を巡見したのち、函館山方面へ

と赴き、北海道坂本龍馬記念館、新島襄海外渡航碑を確認しました。梅谷十次郎が函館戦争に参加した客観的証拠は見いだせませんでした。戊辰戦争全般の史跡や展示、資料を確認しました。

翌日は石狩市に場所を移し、最初に石狩市砂丘の丘資料館を訪問しました。同館では「子母澤寛と大道書房—石狩市民図書館貴重書コレクションから—」を開催しており、同館学芸員の工藤義衛氏の案内で展示を見学したのち、以下の資料の閲覧・複写しました。

- 『北海道倶楽部』（コピー、1935年）1・2・4号
- 子母澤寛「村を出て」（1号）
- 関未代策「石狩河畔の村」（2号）
- 河合裸石「村を出た子母澤さんへ」（4号）
- 茶碗谷徳次「三岸好太郎君の思出」（4号）
- 厚田村史編纂室機関紙・紀要『弁財船』創刊号～31号

続いて、子母澤の生地である同市厚田区に所在する石狩市厚田資料館に伺いました。そして戸田



厚田資料館にて

記念墓地公園事務局の中根誠治氏のご案内により、同資料館内の資料を閲覧し、地元で刊行された貴重文献を確認しました。その後子母澤の文学碑や生誕地碑も巡見しました。

(吉田悦志・阿部裕樹)

V 学内サークル等

硬式野球部合宿所内資料調査〈2010年6月8日

(火) 硬式野球部合宿所（東京都府中市）

硬式野球部は1910（明治43）年の創部以来、日本における野球の発達・普及に重要な役割を果たし、野球殿堂入りした数多くの有名な野球選手や指導者を輩出しています。2010年の野球部創部100年を記念したイベントを野球部OB会が開催するにあたり、資料協力等を依頼された当センターでは、野球部の合宿所に保管されている歴史資料の調査やOBとの意見交換を実施しました。本学図書館担当者とともに合宿所内資料室の調査を実施し、トロフィー・盾など数々の記念物や、「御大」の愛称で親しまれた島岡吉郎野球部元監督をはじめとする写真類、関係書籍などの資料を確認しました。

(阿部裕樹)

V 学内資料

大学のこれまでの「知の営み」を蓄積する大学アーカイヴズでは、ここまで紹介した学外資料の収集の他、学内部局の作成した文書をはじめとする各種資料の移管を随時受けています。2010・2011年度は、募金室、教学企画事務室、広報課、入学センター事務室、博物館事務室、父母会事務室、校友課、施設課、施設課等から各種文書および資料の移管を受けました。

情報・資料のご提供について（お願い）

明治大学史に関する資料をひろく収集しております。どのようなことでも結構ですので、センター（03-3296-4329・4085）までお気軽に御連絡ください。

頂いた情報・資料は整理して永く保存し、明治大学の「知のアーカイヴズ」として活用します。

明治大学創立130周年記念事業（大学史関係）実施

明治大学は2011年に創立130周年を迎えました。明治大学では「世界へー『個』を強め、世界をつなぎ、未来へー」をコンセプトとして各種の記念事業を開催しました。そのコンセプトのもと、当大学史資料センターでは、歴史から未来を切り開く観点に基づき各種の事業を実施しました（協力事業も含む）。ここにその事業一覧を紹介いたします。

1 刊行物

大学の歴史をコンパクトに、ビジュアルに、新しい側面から紹介する各種刊行物を発行しました。

- ①『明治大学小史（特装版）』（学文社 非売品）
※2010年刊行の同書（通常版）は2520円（税込）で書店にてお求めいただけます。
- ②『明治大学小史』外国語版（英・中〈繁体・簡体〉・韓 非売品）
- ③『明治大学小史 人物編』（学文社 2415円（税込））
- ④『明治大学130年デジタル写真集』（CD-ROM版 非売品）
- ⑤【制作協力】『創立期から大学昇格期に至る明治大学財政事情—会計帳簿の分析』（非売品）

2 展示

大学の過去を振り返り、その現在・将来像を照らし出す各種展示を実施しました。

- ①創立130周年記念展示（リバティタワー23階岸本辰雄ホール 10/7～11/13）
- ②創立130周年記念展示「〈個〉を強くする大学130年—現在と創立者」（リバティタワー1階松井康成ホール 10/25～11/13）
- ③【企画・設営協力】明治大学の国際交流130年（アカデミーコモン地下1階特別展示室 10/7～12/18）
- ④三木武夫展（大学会館1階 10/16～12/22）
- ⑤阿久悠記念館（アカデミーコモン地下1階 10/28より常設展示施設としてオープン）

⑥【企画協力】大ミュージアム月間スタンプラリーの開催

3 創立者モニュメント等の設置

大学創立者と建学精神を末永く継承するためのモニュメント等を設置しました。

- ①「宮城浩蔵先生顕彰碑」碑文説明板設置（山形市）
- ②明治大学創立者レリーフ設置（駿河台・和泉・生田キャンパス）
※中野キャンパスは2012年度末にレリーフ設置予定。

4 各種イベント

センターの蓄積した大学史に関する情報資源を著名校友に関するシンポジウムや地域連携事情に活用しました。

- ①無信不立 いま、三木武夫を問い直す（シンポジウム 11/4）
- ②【企画協力】〈神田・神保町中華街〉プロジェクト（地域連携イベント）
※神田神保町地区と協業。アジア留学生街の側面も持っていた同地区と、留学生の受け皿であった明治大学の歴史を振り返りながら、神保町に残る中華街に迫る試み。老舗中華料理店のスタンプラリー・中華獅子舞パレード・三省堂書店でのブックフェアなども開催。



各種イベントチラシ

——大学史資料センター最新刊行物案内——



三木武夫研究

〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5460円(2011・10)

国民を懼れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る明治大学三木武夫研究会共同研究の成果。



総理の妻 三木武夫と歩いた生涯

〈日本経済評論社刊〉

三木睦子著 明治大学史資料センター監修 明治大学三木武夫研究会編 四六判上製 288頁 定価2100円(2011・10)

激動の50年間を議員として生きた三木武夫の妻が語る、戦前戦後の政界秘話と人間・三木。



布施辰治研究

〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修、山泉進・村上博編著 A5判上製 328頁 定価4200円(2010・12)

日本統治下の朝鮮で独立運動家の弁護活動を引き受けるなど、「日本人シンドラー」とも呼ばれる「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。著作目録・年譜も掲載。



大学史概要第16号 木村礎研究 I

A5判並製 200頁 定価800円(2012・3)

日本近世村落史・生活史で多大な業績を残し、明治大学学長を務めた木村礎。研究や関係者の証言で明らかにする。明治大学木村礎研究会の成果第1弾。



大学史資料センター報告第34集 大学史活動

A5判並製 145頁 定価500円(2012・5)

最新データを活用した大学アーカイヴズ担当者による論文と資料。今回は創立者岸本辰雄と所蔵写真資料目録を掲載。



明治大学小史 人物編

〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2415円(2011・10)

明治大学が輩出し、各界で活躍する人物山脈は実に多様である。大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツの諸分野から119名を精選して紹介。国際化の潮流を取り入れ、「アジア人留学生」も項目も設けた。明大人必携の一書。



〈好評既刊〉明治大学小史——〈個〉を強くする大学130年——

明治大学史資料センター編 四六判並製 280頁 2520円(2010・3)

ニュースレター 明治大学史 vol.9 URL <http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2012年3月31日

編集・発行 明治大学史資料センター

住所 101-8301 千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086

E-mail history@mics.meiji.ac.jp